



環境（サステイナブル）企業を 目指して

**Toward Becoming a Leading Company Creating a Sustainable
Environment**

専務取締役 土屋 総二郎

Sojiro TSUCHIYA

20 世紀後半から 21 世紀には、世の中が大きく変わるのではないかと言われてきた。しかし、21 世紀を迎えても比較的順調平穏で、それ程大きな変化はないような状況が続いていたが、皆さんも感じているように 2008 年より大きく変化が始まったのではないかと思う。2008 年 9 月のリーマンブラザースの破綻以後、アメリカ、欧州、日本そして全世界におよぶ経済危機が発生した。これは単なる経済危機ということのみならず、人々の価値観も大きく変わりつつある。従来からの快適、利便といったことに加えて、人や環境への優しさが大きくクローズアップされてきている。地球温暖化の問題も、従来に増して真剣な議論が全世界的に始まってきているし、我が国では政権交代もあり将来に向けた具体的な数値目標も出されてきている。

自動車の分野においても、ご承知の通り大きな変化が出てきている。特に 2009 年度に入ってから以降、ハイブリッド車の人気は大変なもので車種別売り上げの上位を占めるようになったと共に、各地のモータショーにおいても HV、EV がたくさん出展されている。自動車の技術競争は、ほとんど低燃費の達成度合いの競争といっても過言でないほどである。

自動車以外でも、風車の利用や太陽電池の一般家庭への普及などが本格的に始まっている。そのほかにも家電製品の省エネルギー化や工場、プラントの省エネルギー化も着実に進んできている。また、家庭や工場の廃棄物低減や分別収集、リサイクルも定着してきた。

このように大きく見れば 21 世紀に入ってほぼ 10 年たってみると、20 世紀の成長一本やり、資源やエネルギーの多消費型の文化に対して、大きく変わってきていると思うし、今回の経済危機はこれらの流れを更に顕在化させるのではないかと思う。

資源やエネルギーはもともと無限にあるものではなく、また我々の暮らすこのかけがえのない地球環境を守るということは、人類共通の大きな課題であるということを世界の人々が明確に認識はじめたことによるものである。これは本当に大きな問題であると共に、国や政治の問題のみならず、我々一人ひとりの問題であると考えなければならないと思う。特に当社のような「モノづくり」にたずさわる者にとっては、大変大きな課題であると共にこれらを解決していくことにより社会に大きく貢献できることでもある。

このような時代を迎えるにあたって、大切なことは「環境」と「経済」を両立することである。経済は言うまでもなく人々の生活を支える根幹である。人々の生活を守り、そして同時に地球環境も守るということが今後の絶対条件である。車の例で言えば、「安価な環境対応車」を作れば、多くの人々がその車を買うことができ、そして燃料費も安く、地球環境にも良くなる。自動車メーカーや部品メーカーも繁栄し、さらなる環境に優しい車の研究、開発も進み、そこで働く人々の暮らしも守られる。これからの社会はすべての面において「環境」には無縁ではいられないし、また人々の暮らしがあるかぎり「経済」とは無縁ではいられない。

どうしたら「地球環境を守ることができるのか?」、そして「経済的にも成り立たせるのか?」、大きな鍵を握るのは「技術の力」であると思う。人類は今までもいろいろな課題に対して、知恵を使いそれを技術として蓄積し、乗り越えてきた。今回の環境に対しても、知恵を使い、技術を確立していくことが非常に大切なことであると思う。

環境に関わる技術は、単独ではない。材料に関わる技術から機械技術、電気・電子技術、化学技術、制御技術や評価技術、システム技術やソフトウェア技術など本当に多岐にわたる技術を総動員し、連携していくことが必要なのである。これらの成果として安価で実用的な環境対応技術や製品が生まれ、それらが広く普及することにより環境に優しい社会が実現していくのだと思う。

今回の「環境技術特集」は当社の環境に関わる技術の一端を紹介したものであり、これらの技術は現在、そして将来の製品に活用され、地球環境と社会の発展に寄与するものであると確信している。